

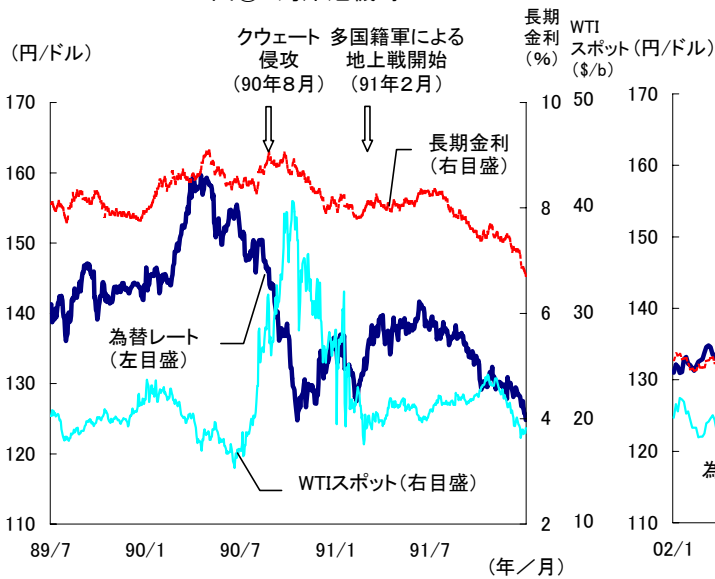
[今月のトピック]

アメリカ経済の動向：湾岸危機時との比較

<ポイント>

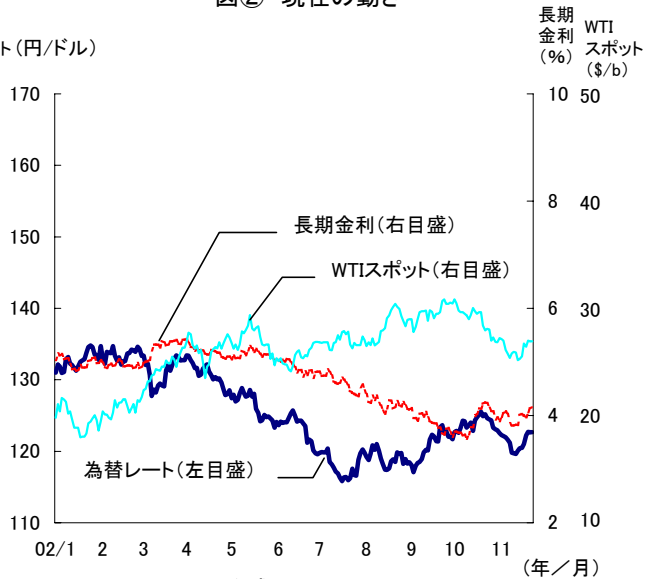
- 90年8月のイラク軍クウェート侵攻時には、原油価格が急騰し、ドルは大幅に減価した(図①)。他方、本年7月以降、イラク情勢が緊迫しているが、これまでのところ原油価格・ドルとも比較的落ち着いた動きとなっている(図②)。
- しかしながら、現在のアメリカの消費者マインド、個人消費には、90年と同様にマインドの悪化、消費の伸び鈍化という似たような動きがみられる(図③)。
- 仮にアメリカによるイラク攻撃が実施された場合、原油価格は1バレルあたり40~80ドルまで上昇するとの試算もある。民間機関では、2003年第1四半期に3%程度(年率)経済成長率が押し下げられるという見方もある(図④)。
- アメリカではイラク攻撃後の復興への関心が高まっており、軍事費用やマクロ経済的影響のみならず、戦後の復興費用も勘案して、攻撃の総費用は10年間で最大1.6兆ドル(GDP比16%)にのぼるとの試算もある。

図① 湾岸危機時



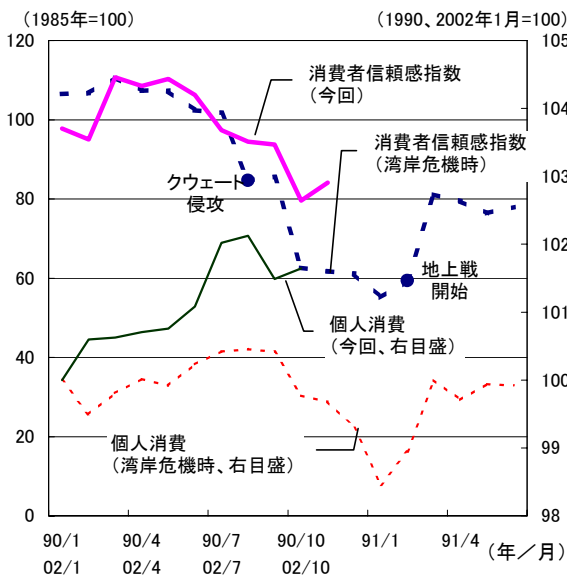
(出所) Datastreamより作成。

図② 現在の動き



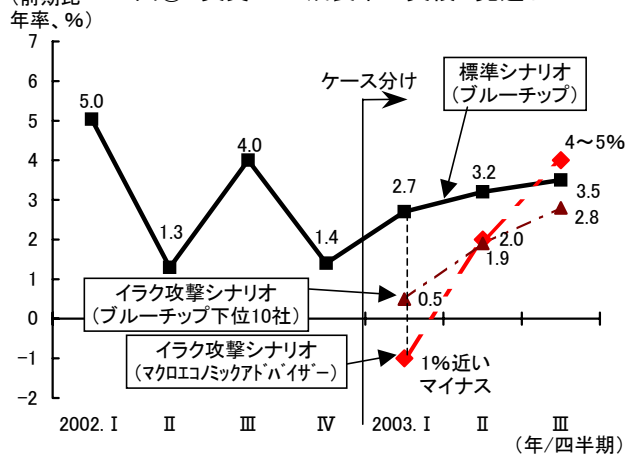
(出所) Datastreamより作成。

図③ 湾岸危機時と現在の比較  
(消費者信頼感と個人消費)



(出所) アメリカ商務省

図④ 実質GDP成長率の実績と見通し



(出所) ブルーチップ(11月10日、12月10日各号)、マクロ・エコノミック・アドバイザー(2002年9月)をもとに作成。

- (注) 1. 11月に開催された戦略国際研究センターのコンファレンスでは、マクロ・エコノミック・アドバイザーのモデルを用いて、イラク攻撃シナリオのうち最悪のケースで、2003年の成長率が4.5%押し下げられるとの試算も示された。  
2. ブルーチップのイラク攻撃シナリオは、2003年1~3月期にイラク戦が始まると仮定。全社平均では、同期2.1%成長の見通し。